

1 一般犯罪情勢について

(1) ハンブルク州

ハンブルク州の「2017年犯罪統計」が発表されました。2017年中の一般犯罪情勢の主なポイントは以下のとおりです。

【ポイント】

- 2017年中の犯罪認知件数は22万5947件（前年比-5.6%）で、2年連続減少
- 犯罪発生率<sup>(※)</sup>は1万2480件（前年比-6.8%）で、過去37年間で最低の水準  
※ 人口10万人当たりの犯罪認知件数
- 窃盗、強盗、傷害の認知件数が減少し、殺人、詐欺の認知件数が増加
- 少年犯罪は2年連続で減少し、21歳未満の容疑者は1万4741人（前年比-8.4%）

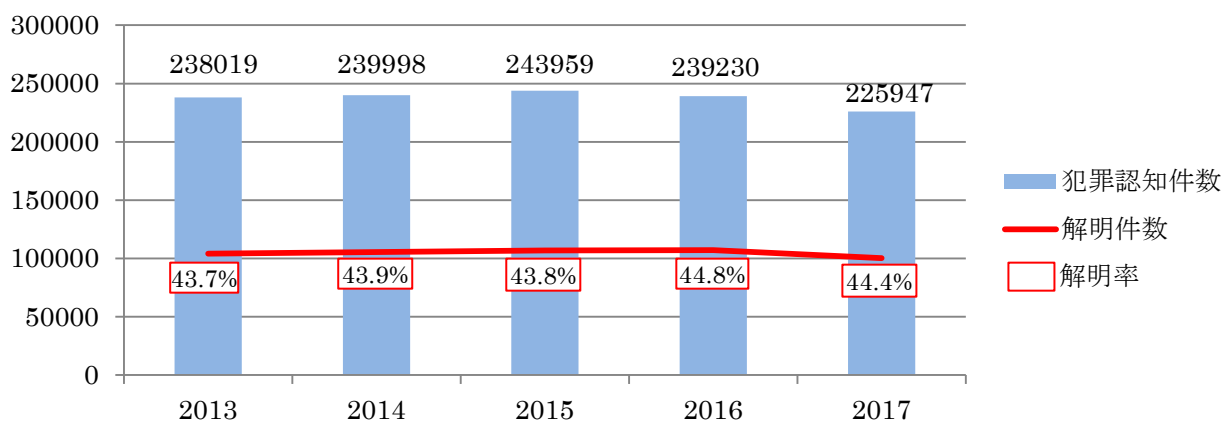


図1 ハンブルク州の犯罪認知件数と解明率の推移

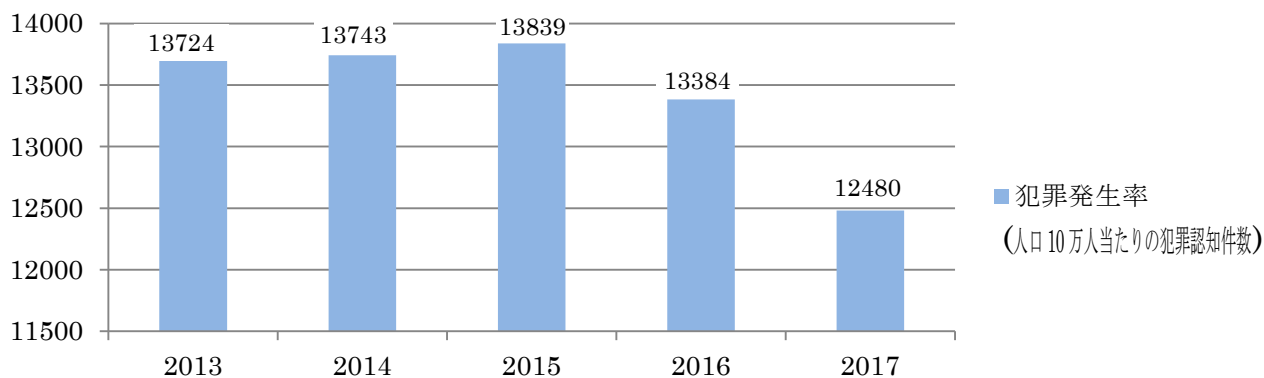


図2 ハンブルク州の犯罪発生率の推移

【参考】日本の2017年中の刑法犯認知件数：91万5042件、刑法犯発生率：723件<sup>(注)</sup>

(注) 人口10万人当たりの刑法犯認知件数。総務省統計局の人口推計（2018年1月1日現在人口（概算値））を使用して算出。

## (2) ブレーメン州

ブレーメン州の「2017 年犯罪統計」が発表されました。2017 年中の一般犯罪情勢の主なポイントは以下のとおりです。

### 【ポイント】

- 2017 年中の犯罪認知件数は 8 万 1176 件（前年比-11.7%）で、大幅に減少
- 犯罪発生率(※)は 11960 件（前年比-14.4%）で、過去 25 年間で最低の水準  
※ 人口 10 万人当たりの犯罪認知件数
- 窃盗、強盗の認知件数が減少し、傷害、性犯罪の認知件数が増加
- 21 歳未満の容疑者 5896 人（前年比-16.5%）で、前年より 1169 人減少

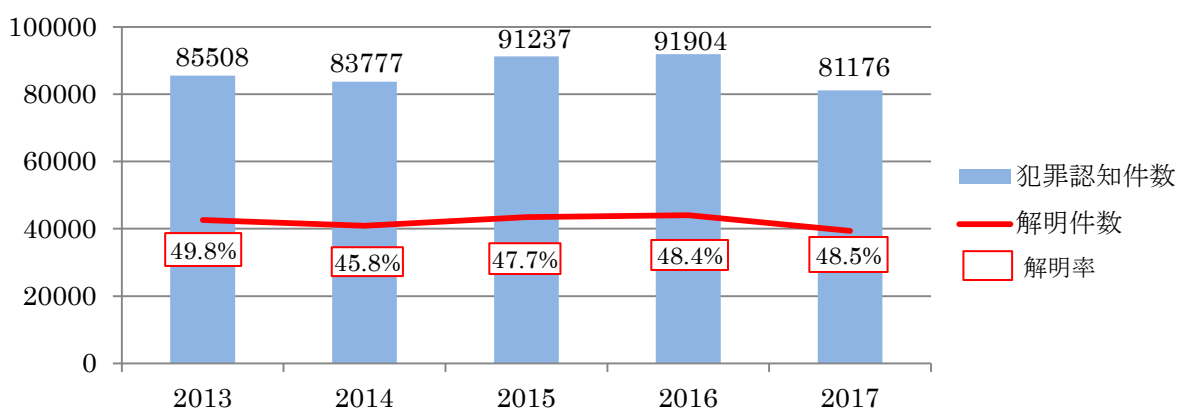


図3 ブレーメン州の犯罪認知件数と解明率の推移

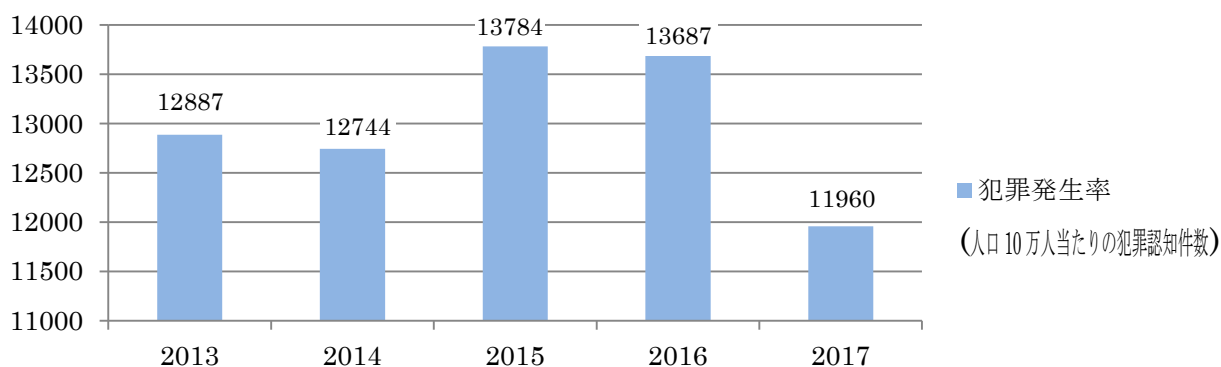


図4 ブレーメン州の犯罪発生率の推移

【参考】日本の 2017 年中の刑法犯認知件数：91 万 5042 件、刑法犯発生率：723 件(注)

(注) 人口 10 万人当たりの刑法犯認知件数。総務省統計局の人口推計（2018 年 1 月 1 日（概算値））を使用して算出。

### (3) ニーダーザクセン州

ニーダーザクセン（NS）州の「2017年犯罪統計」が発表されました。2017年中の一般犯罪情勢の主なポイントは以下のとおりです。

#### 【ポイント】

- 2017年中の犯罪認知件数は52万6120件（前年比-6.4%）で、2年連続減少
- 犯罪発生率(※)は6621件（前年比-6.6%）で、過去36年間で最低の水準  
※ 人口10万人当たりの犯罪認知件数
- 殺人、強姦、強盗、窃盗、知能犯（詐欺、横領等）の認知件数がいずれも減少
- 21歳未満の容疑者は3万5900人（前年比+4.1%）で、10年ぶりに増加

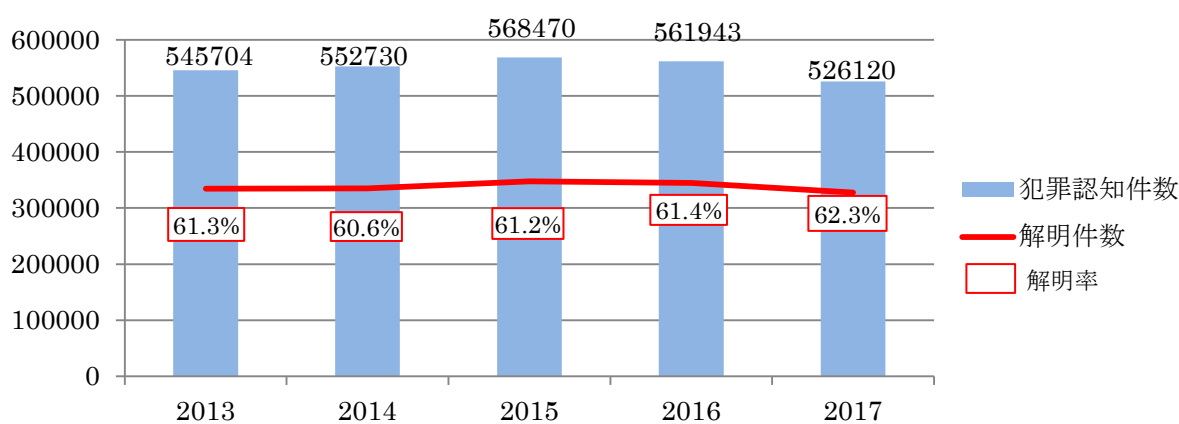


図5 NS州の犯罪認知件数と解明率の推移

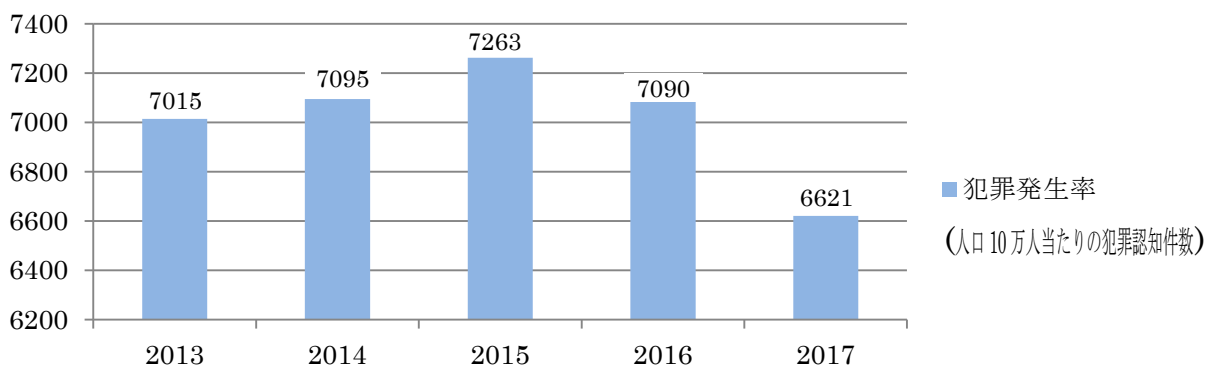


図6 NS州の犯罪発生率の推移

【参考】日本の2017年中の刑法犯認知件数：91万5042件、刑法犯発生率：723件(注)

(注) 人口10万人当たりの刑法犯認知件数。総務省統計局の人口推計（2018年1月1日（概算値））を使用して算出。

#### (4) シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン（SH）州の「2017年犯罪統計」が発表されました。2017年中の一般犯罪情勢の主なポイントは以下のとおりです。

##### 【ポイント】

- 2017年中の犯罪認知件数は18万8979件（前年比-8.5%）で3年ぶりに減少
- 犯罪発生率(\*)は6557件（前年比-9.2%）で、過去10年間で最低の水準  
※ 人口10万人当たりの犯罪認知件数
- 窃盗、強盗、傷害の認知件数が減少し、性犯罪、知能犯（詐欺、横領等）の認知件数が増加
- 21歳未満の容疑者は1万7270人（前年比-10.2%）で、前年より1962人減少

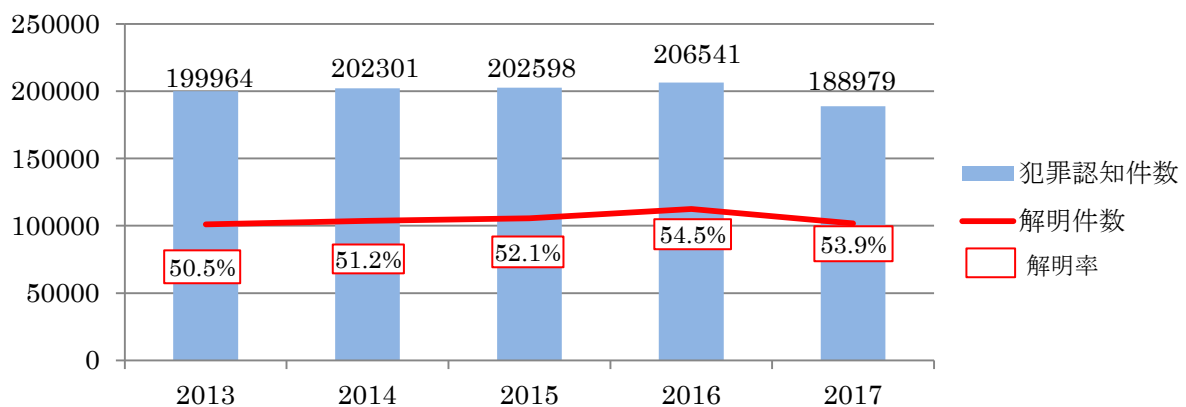


図7 SH州の犯罪認知件数と解明率の推移

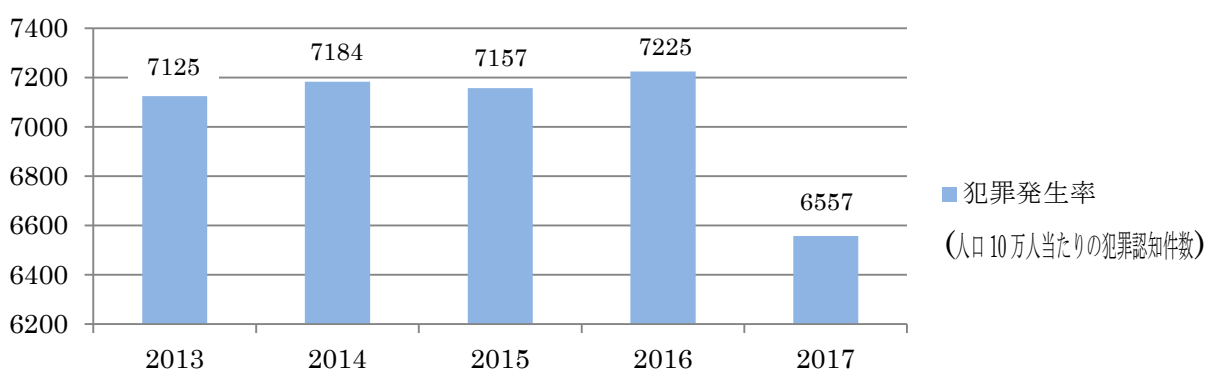


図8 SH州の犯罪発生率の推移

【参考】日本の2017年中の刑法犯認知件数：91万5042件、刑法犯発生率：723件(注)

(注) 人口10万人当たりの刑法犯認知件数。総務省統計局の人口推計（2018年1月1日（概算値））を使用して算出。

## 2 テロ対策について

テロの発生を予測することは困難ですが、普段の心がけや心構えによって、テロに巻き込まれるリスクを軽減し、万が一テロに巻き込まれた場合でも被害を最小限に抑えることができます。

### (1) リスク軽減

- 外務省海外安全ホームページや渡航先の大使館・総領事館のホームページを活用し、渡航先の安全情報を収集し、テロの危険のある国・場所・期間・時間等を避けて行動する。
- テロの標的となりやすい場所を理解する。
  - 記念日等のイベント会場、観光施設、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケットなど人が多く集まる施設
  - 教会やモスク等の宗教関連施設、公共交通機関や軍・警察等の政府関係施設等
- 渡航先で不測の事態が発生した場合に、最新情報の入手が可能となるように、在留届の提出または「たびレジ」の登録を必ず実施する。
- 海外安全アプリをスマートフォンにダウンロードしておく。

アプリのダウンロードはこちら



### (2) テロに対する心構え

- 不審な人物や状況を察知したら、速やかにその場を離れ、自身の安全確保を最優先する。
- 爆発音や銃撃音を聞いたら、その場に伏せる。または頑丈な構造物に隠れる。
- 周囲の安全を確認し、可能であれば低い姿勢で銃撃音等のする現場から速やかに離れ、安全な場所に避難する。

## 3 その他連絡事項

- (1) 3か月以上海外に滞在する方は在留届の提出を、3か月未満の場合は「たびレジ」の登録を必ず実施してください。渡航先の最新安全情報や、緊急時の大使館又は総領事館からの連絡を受け取ることができます。また、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておくようにしてください。

「在留届」の提出：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/>

「たびレジ」の登録：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

- (2) ドイツ国外へご旅行の際にも、旅行先の在外公館から緊急連絡を受けられるようにするため、「たびレジ」のご登録を忘れずに実施してください。